新たな管理型最終処分場候補地選定委員会（第1回委員会） 会議要旨

平成 29 年6月 13 日（火） 14:00～17:15
高知サンライズホテル 2階 向陽

1 出席

（1）委員
・9名（欠席：西條辰義委員、中澤慎二委員）
（2）事務局
・田所林業振興・環境部長、森下副部長、萩野環境対策課長 他4名

2 委員長選出

・笹原克夫委員を委員長に選出（委員互選）

3 議題

Ⅰ－1 これまでの経緯や取組みについて

【事務局】

・エコサイクルセンター開業までの経緯や、平成 28 年度に策定した「高知県における今後の新たな管理型産業廃棄物最終処分のあり方に関する基本構想」の概要を説明。

【主な意見等】

・基本構想における管理型産業廃棄物最終処分量の将来予測は、人口減少に伴う産業の収縮なども想定されているのか。

・鉱さいを有効利用して、埋立量を減らすことはできないものか。

Ⅰ－2 新たな管理型最終処分場整備に向けた今後の進め方について

【事務局】

・今後のスケジュール、候補地を選定するための基本的な考え方と選定方法を説明。

【主な意見等】

・本委員会における候補地選定は、基本的に机上での資料調査により行うと理解してよいか。

・生活者、消費者の立場としては、施設の必要性や安全性をきちんと説明していくことが候補地選定に繋がるのではと考える。

・過去のエコサイクルセンター適地選定時における日高村の住民対立のような悲劇が繰り返されないようにしなければならない。

Ⅱ－1　選定エリアについて（案）

【事務局】

・法規制等により選定から除外する区域や選定エリアとする区域及び新施設に必要な敷地面積についての考え方を提案。

【主な意見等】

・法規制や防災面などによる除外のみではなく、各市町村の振興計画などに位置付けられている所も選定エリアから除外してはどうか。

・地元市町村の意見を聞くことはお願いしたいが、それは本委員会ではなく、候補地が選定された後で県により対応すべきことと考える。

・防災の観点は、地すべり防止区域、砂防指定地、急傾斜地崩壊危険区域だけでは、甘いように感じる。土砂災害危険箇所なども検討してはどうか。ただし、除外区域とするのではなく、危険性を考慮するという形がいいかと考える。

・2次スクリーニング等の後半段階では、国土交通省が実施している航空レーザー計測による地形表現図を使って、地形判読の実施を検討してほしい。

・1次、2次スクリーニングは、○か×なのか、ABC ランクで判断か、合計点で判断するのかなど、どのように評価するのかを早い段階で決めておいた方がよいと考える。

・エコサイクルセンターの現状を理解してもらうことが、すごく大切なことだと思う。安全な施設ということであれば、候補地に選定されても安心できると考える。

【結論】

・法規制等により選定から除外する区域や選定エリアとする区域及び新施設に必要な敷地面積は、事務局提案のとおりとする。

・各市町村の振興計画などを今後の評価項目などに盛り込むかどうかは委員会で検討する。また、地元市町村の意向確認などは、候補地選定後において、県により対応していくこととする。

・防災の観点については、土砂災害危険箇所などの追加及び航空レーザー計測結果を使っての地形判読の実施については、事務局において検討する。

・評価の方法については、今後、選定を進めていく中で審議していく。

Ⅱ－2　公募の実施について（案）

【事務局】

・公募を実施することのメリット、デメリットを説明し、公募の要領（応募資格者や公募の条件等）を提案。

【主な意見等】

・公募を情報公開の手段の一つとして、必要な施設を今こういう風に決めているというプロセスをお知らせするべきと考える。

・応募期間が短すぎるのではないか。同意を省かないと、応募はないのではないかと考える。

・市町村としては、市町村議会（の承認）を考えると、2ケ月くらいでは応募することにはならない。ただし、応募期間が長ければよいというものでもないと考える。

【結論】

・公募の実施については、事務局提案のとおり応募の要件等を定めた要領により、6月下旬から8月末までの間、実施する。

〇審議全体を振り返って

・埋立容量は、17 万 m3 から 23 万 m3 となっているが、ある程度以上の規模の施設を作ってほしい。